

25年11月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 10月20日～ 11月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+「やや増加」の評価を行った回答の割合-「減少」の評価を行った回答の割合×2-「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		25/11月	12月	26/1月
伐採動向	スギ	50.0	50.0	33.3
	ヒノキ	50.0	50.0	50.0
	カラマツ	16.7	0.0	△ 16.7
	エゾ・トド	—	50.0	100.0
出荷・販売動向	スギ	41.7	41.7	25.0
	ヒノキ	50.0	50.0	50.0
	カラマツ	0.0	0.0	△ 33.3
	エゾ・トド	—	0.0	100.0
手持立木 在庫動向	スギ	40.0	50.0	50.0
	ヒノキ	50.0	50.0	50.0
	カラマツ	16.7	16.7	16.7
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0

伐採動向はスギ、ヒノキとも増加傾向で推移、カラマツは、11月の増加から12月横ばいを経て1月は減少に、エトドマツは1月に向けて増加。出荷・販売はスギ、ヒノキは増加傾向で推移、カラマツは11,12月横ばいから1月には減少、トドマツは1月に向け増加。手持立木在庫はスギ、ヒノキ及びカラマツは増加傾向で推移、トドマツは横ばい。

モニターからのコメント

(伐採動向)

・現在、国有林のカラマツ間伐の請負をしており12月下旬より手持ちの立木販売箇所のトドマツを伐採予定であるため、翌月よりトドマツの伐採が増加する。・スギ、ヒノキ間伐増加。民有林間伐5,000m³、国有林立木9,000m³購入。・入荷は天候不順による入荷不足等もあって各工場原料不足をきたしている。伐採、強気。

(出材・販売動向)

・トドマツ・カラマツともに購買意欲が旺盛で出材すると売れる状況、ただしトドパルプ材は製紙工場の生産調整のためチップ工場への納入がストップしている。・合板、製材所ともに原料不足をきたしている。量、単価共に強気配に転じている。

(手持ち立木在庫)

・国有林の立木公売で来年の予定数量を確保したので今年度は横ばいで推移。・強気買入傾向。